



商学部長に小菅 正伸教授が決定



11月18日に開催された第877回商学部教授会で小菅 正伸教授(53歳、会計学専攻 博士(商学))が次期学部長に選出されました。

小菅教授は、1978年に本学商学部を卒業、83年には同大学院商学研究科博士課程後期課程を満期退学。83年に関西学院大学商学部専任講師に就任し、93年同教授。

学部では「原価計算論」を担当し、大学院では商学研究科博士課程後期課程指導教授も務められています。

研究業績では、『行動的予算管理論』『基本原価会計論』『原価会計の基礎』など著書・論文は多数に上り、学会活動では日本会計研究学会(評議員)、日本管理会計学会(理事)、日本原価計算研究学会(副会長)など積極的に活動を展開され、平成18~22年の公認会計士試験の試験委員をされています。

体育会スケート部部長を務め、定期戦の応援にも積極的に参加しておられます。

任期は2010年4月から2012年3月まで。

秋学期定期試験の開始

2009年度秋学期の定期試験が1月15(金)~26日(木)の間に行われます。不正行為に際しては学部の内規により非常に厳しい対処がなされますので、フェアな精神で挑んで下さい。また、今年はインフルエンザの影響も考えられます。試験期間は2週間弱続きますので、綿密で無理のない学習計画を立て、健康には十分に留意してください。もちろんマスク等の着用もすすめます。

エコキャンパス委員会報告

ペットボトルキャップをワクチンに!

商学部では、体育会学生本部が推進しているエコキャップ活動への協力に取り組むことにいたしました。エコキャップ活動とは、廃棄されることが多い(ペットボトルの)キャップを回収し再利用するというもので、NPO 法人エコキャップ推進協会では「エコキャップの回収の対価(400個で10円)によって、世界の子供たちにポリオワクチン(20円で1本)を届ける」という活動を行っています。

商学部エコキャンパス委員会は、過去二年間12月に数日、学部の建物と周辺の照明を消して、キャンドルライトを灯し、地球環境の重要性を体感しようという取り組みを展開してきました。今年は、エコキャップ活動そのものが身近な環境問題を考える良い機会になると考えました。



2010年度(研究演習I)所属の確定

第二学年の秋学期開始とともに始まった「研究演習I」の申込期間が、2009年10月23日をもって終了しました。商学部では第三年次に「研究演習I」、第四年次に「研究演習II」を設定しています。これらはいずれも少人数教育による、教員と学生の膝を付き合わせた議論の場を提供し、より深い専門的知識を身に付けることを目的としています。特に「研究演習II」では、4年間の学習の集大成である卒業論文の指導が行われます。「研究演習I」の履修に際しては、先修条件がありますので、将来ゼミ所属を希望する学生は、学習計画に役立てて下さい。

私が薦めるこの一冊 伊藤 秀和准教授

『その数学が戦略を決める』イアン・エアーズ(著)
山形 浩生(翻訳)

価格: ¥1,800、出版社: 文藝春秋(2007/11/29)

ふたつのグループの様々な要素の相関関係を計算することで、直感ではわからない意外な事実が浮上する。クレジットカード返済の延滞回数と自動車運転事故の確率。買い物履歴と離婚率。生活習慣と特定疾病

の発病率。ぶどう収穫年の降雨量とビンテージ価格。情報技術革新が兆単位(テラバイト)のデータ収集を可能にし、統計分析がありとあらゆる現象を明らかにする。米国イェール大学(Yale Univ.)の法科大学院および経営大学院の教授で弁護士、ForbesやNY Timesのコラムニストでもあるイアン・エアーズ(Ian Ayres)の傑作。



商経学部開設 75 周年記念 学術講演会の終了

商経学部開設 75 周年を記念して 2009 年度は、学外講師による連続学術講演を行ってきました。4 月 24 日から始まった講演は 12 月 10 日までに計 13 回を数えました。講演の後には引き続き講師との交歓会も数回行われ、学生にとっても良い機会となりました。

ご協力頂いた講師の方々はこの場をお借りして、お礼を申し上げます。

Business Wings

商学部では 2002 年度以来、毎年 3 月の卒業式にあわせて、機関誌『Business Wings』を刊行しています。おもに各ゼミから選出された学生のみなさんが編集委員として取材・編集に携わっています。

『Business Wings』には、当該年度の全卒業論文のタイトル一覧と、各ゼミの優秀論文の要旨が掲載されます。また今年も、さまざまな分野で活躍されている学生・卒業生のかたがたの取材や寄稿、全教員からのメッセージも掲載されています。



卒業論文締め切り

今年度の卒業論文の提出が 2010 年 1 月 12 日(火)16:50 をもって締め切られました。現在研究演習 I に所属している皆さんは、4 年間の学習の集大成として何をテーマと選ぶのか、指導教員をつかまえて相談してみてもいかがでしょうか。また、ゼミの先輩などからアドバイスを受けるのも良いと思います。なお、卒業論文の提出に際しては、学生本人が提出すること、商学部所定の表紙およびファイルを使用すること等、厳格なルールがあります。詳細については、『学習と履修の手引き カリキュラム編』に掲載されていますのでチェックしておきましょう。

教員の著書・出版

林 隆敏 教授

共編 (監査人・監査報酬問題研究会編)

『2010 年版 監査人・監査報酬白書』

(日本公認会計士協会出版局発行、清文社発売)

定価 5,238 円 (税別)、2009 年 12 月 30 日付け出版

禪野 美帆 准教授

共著『初級～中級スペイン語 世界遺産を訪ねて』

(朝日出版社)

定価 2,300 円 (税別)、2010 年 1 月 15 日付け出版

教員紹介



寺地 孝之教授

金融史と国際金融論を担当しており、最近では投資銀行の経営に関心があります。学外では、役員としていくつかの会社の経営にも携わっています。草野球や趣味のゴルフに対してプロ野球選手やプロゴルファーがいるように、学生にも素人とプロがいると思います。とくにゼミは、「プロの学生」を育てる場だと考えています。一定のトレーニングを経て高い社会的評価を得ることができるのは、プロ野球選手もプロゴルファーも、そして学生も一緒です。4 年間の学生生活は消費するものではなく、投資するものであり、的確な投資行動が「充実したキャリア」というリターンを諸君に必ず約束してくれるはず。投資は預金と違い、慎重に判断しないと元本割れもあるので要注意です (笑)。



田中 裕幸准教授

昨年 8 月までの二年間、米国ボストンに留学し、専門の理論言語学の研究をしてきました。ボストンと言えばレッドソックス。街では応援 T シャツをよく見かけます。その中には Sox Rojas (rojos はスペイン語の red) とか、Dice-K (松坂大輔の愛称) などと書いてあるものがあります。なぜ Rojas Sox ではないのか、なぜ Daisuke では英語話者に覚えてもらえないのか、という問題の裏には英語、スペイン語、日本語の間の文法・音韻システム上の違いがあるわけですが、理論言語学はこのように「表面上異なる多くの言語」を生み出すベースになる、人類共通の言語を操る仕組みを解明しようとする科学分野です。

